

最新クルーズフェリーで行く洋上ゼミ

CITY LINE
名門大洋フェリー NEW SHIP 2021

2泊3日 船中2泊
2022/3/14-16

大阪発新門司往復(船内研修・アカデミーおよび門司港視察付き)

スマートクルーズアカデミー(大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室内)・全国クルーズ活性化会議共催



スケジュール概要

- 14日(月) 15:45 大阪港集合 大阪港意見交換会 その後乗船
17:30 頃乗船→18:00 セミナー→19:00 夕食
19:50 大阪港発 出港見学・入浴
20:30-22 交流タイム(マスク着用)
- 15日(火) 7:15 朝食タイム、8:30 新門司港入港
入港後、船社のバスで門司駅へ。
門司港へ。視察・意見交換など。門司港展望台視察。
ランチ(各自)語、下関へ。視察・意見交換など。
関門海峡(地下道)を通り、門司港へ
門司駅から船社バスで新門司港へ。
17:30 頃乗船→18:00 セミナー→19:00 夕食
20:30-22 交流タイム(マスク着用)
- 16日(水) 7:15 朝食タイム、8:30 大阪港着後解散



目次

フェリーきょうとの新造船に向けた取り組み(セミナー) で学んだこと、感じたこと	3
フェリーきょうとの船内及び食事、大浴場など設備・内容についての感想	5
北九州市のクルーズ受け入れ港湾、状況のお話を聞いて学んだこと、感じたこと	7
門司港地区を散策しての感想：門司港レトロ観光の魅力について	8
下関市のクルーズ受け入れ港湾、状況のお話を聞いて学んだこと、感じたこと	10
下関地区(唐戸市場地区、赤間神宮地区、関門海峡人道) を散策しての感想・観光の魅力について	12
今回の企画において、特に満足したポイントを3つ	14
クルーズ・フェリー体験企画についての意見や今後への要望。	15

フェリーきょうとの新造船に向けた取り組み(セミナー) で学んだ・感じたこと

1. トラックが人材不足といえど、船舶の従業者の高齢化が進んでいることも聞いていたので、省力化や採用の力を入れているということを知って安心しました。2024年問題に対応するにあたって、実際に国土交通省からの依頼を受けたコンサル会社から輸送力増大の可能性のヒアリング機会を受けているということで、トラックの代替手段としてフェリーは大きな役割を持つことを、改めて実感しました。
2. トラックドライバーや観光客に快適に過ごしてもらうために感染症対策はもちろん、揺れを抑える技術を取り入れていたり、物流効率化のために二口荷役が行えるようになっていたり、日々フェリーも進化したりしていることがわかった。交通費+宿泊費と考えたら非常にお得だなと感じたので、そういったお得感を実感できる料金表示をしたらより良さが伝わるのではないかと思った。
3. 災害時におけるフェリーの優位性のお話が印象に残った。これまで普段の旅行や物流の手段としてしかフェリーを認知していなかったが、地震など災害時に陸路や空港が使えなくなっても海路からアプローチできたり、一度に大型物資も人員も輸送できたりするのは大きな強みだと感じた。その他モーダルシフトの観点から海運の役割を訴求していくと仰っていたが、フェリーの発着数増加のためにはどんなことが必要なのか気になった。
4. 個人的にはパウダールーム等女性に配慮している点・環境に配慮している点に魅力を感じた。前者では、男性と閉鎖された空間に滞在することに抵抗を覚えたり、ツーリストでは準備を行う空間がないといったり、女性ならではの問題を解決しており、男女ともに乗船したいフェリーであると思う。後者では、環境問題が深刻化している中、環境に配慮することは乗客としても社会的にも嬉しい設備であると思う。
5. ひとことにフェリーと言っても、そこには多くの方の取り組みがあるのだと感じた。特にそれを実感したのは航海中の過ごし方をどのように優雅なものにするかを考えて内装に工夫を凝らした点である。競合との競争もある中で確かな価値を創出していたように感じる。
6. 新造船が環境面、物流面に配慮されている点が特に印象に残りました。トラックドライバーが減少していく中、トラック積載能力向上や荷役時間短縮設備の導入などモーダルシフト促進に向けた取り組みは今後益々重要になると感じました。また、ハイブリット型推進方式やSOxを削減するシステムなど燃費削減に貢献する仕組みが導入されており、環境面に配慮し

た船の設計がなされていることも分かりました。説明資料は写真が豊富で文章も分かりやすく、新造船の説明や取り組みを容易にイメージすることが出来ました。一昨年に取り組んだモーダルシフトが社会で実際に進められていることを実感するセミナーでした。

7. 新造船に使用される様々な技術を学び、普段は何も気にせずに交通機関を利用していたが、そのような技術がどのように使われているかが気になるようになった。また、新造船に使われている技術から、船舶業界の流れ（モーダルシフトの促進、カーボンニュートラル）がわかるような気がしました。
8. 高速道路の話と併せて、クルーズなどの交通機関が地方経済に与える影響について考えさせられた。昨年モーダルシフトを研究してきたため、貴社のSDGsの取り組みについても興味深く聞かせて頂きました。
9. エンジンの改良などを通じて、より環境にいい船を作ることができるようになっていることを知りました。また、あえ定員を減らすことでより快適な船旅を提供するという考え方は比較的安い価格帯の船ではあまりないことであると思ひ、非常に驚きました。内部デザインも非常に考えられてデザインされていることを知り、前の船と比較してみたかったです。
10. 船を大きくした一方で定員数は変わらず、トラック積載量とスペースのゆとりを向上させたというのは、それがいま求められているから、すなわちモーダルシフトが実行されつつあるのだと実感した。また二口荷役を可能にするための可動橋建設に10億かけたということに驚いた。荷役時間の短縮は私が思っていたよりもずっと重要なことなのであろう。
11. トラックドライバー不足問題を解決すること、またモーダルシフトの推進をすることにおいて、フェリーがいかに有効なものかを学びました。フェリーきょうとは、パウダールームがあったり、車椅子を利用されている方がそのまま乗船できる作りになっていたりしており、様々な利用者が、より満足できるように、また過ごしやすいうように配慮が行き届いている船だと感じました。
12. あらゆる環境に配慮するという点に力を入れられているのだなと感じた。抗ウイルス・抗菌加工のようなコロナ対策はもちろん、トラックドライバーの労働環境の改善にも尽力されているイメージを受けた。災害時の交通手段としてのフェリーも視野に入れ、どんな目的で乗船する人にとっても船内の快適な環境づくりがなされているという点が、とても印象に残った。
13. 「旅客」、「環境」、「物流」をテーマとして、それぞれ旧造船の課題に対応できるよう改善されている点が素晴らしいと感じました。他の交通手段と比べて船でしか味わえないという観点で、瀬戸内海の三大架橋の夜景が見れるということをもっと押し出してもよいのかなと思いました。
14. 環境や女性への配慮など、昨今の世界情勢を踏まえたうえでの設計に非常に大きな企業努力を学ぶことが出来た。特に、車両甲板にEV車用の充電スタンドを設けたことについては、実際に国土交通省に直接許可を求めたお聞きし、これからの新しいツーリズムへの取り組みの真剣さが感じられた。
15. 新たな船を新造船するにあたり、考慮されている点や、重視している点を学ぶことが出来ました。新船のコンセプトと内装との整合性などがきちんと取れていて、素晴らしいなと感じました。また、どう船上のサービスを向上させていくかが考えつくされているなど同時に思いました。
16. 新造船は、被代替船に比べて大きくなっているものの旅客定員は減っていて、代わりにトラック輸送能力が大幅に向上していることから、モーダルシフトがより重要視されるようになったことがうかがえた。紹介の中で「女性の声」という言葉が何回か登場したが、やはりフェリー移動というと雑魚寝のイメージが強く女性からは特に敬遠されがちで、そのイメージを変えることが重要だと感じた。

17. フェリー業界も、競争に生き残るため様々なことを考え、その戦略の上での新船なのだと感じました。トラック運転手をターゲットに組み込んだり、夜行バスや新幹線の利用客へのアプローチも含まれたりしていて、多様な層に刺さるようなフェリー作りを意識していらっしゃるのを実感しました。
18. 様々な用語を学べて面白かったです。MALS について、はじめはコロナ対策用であると思っていましたが、船体抵抗に関係するものであると知り、非常に興味深いと思いました。SOX 排出規制と高速道路との競合、ドライバーの労働時間との関係など、もっと深堀して行きたいなと思います。

フェリーきょうとの船内及び食事、大浴場など設備・内容についての感想

1. 船内の食事ではたくさんの種類のごはんをバイキング形式で食べられて、満足でした。また、大浴場の浴室が広く疲れを癒すことが出来ました。朝にお風呂に入ると海が見え、海を走っているのを感じながらお風呂に入るという珍しい経験ができました。脱衣所については、ピーク時は少し狭く、ドライヤーは足りないように感じました。一方で、お手洗いにもドライヤーが用意されていたので、それほど不便には感じなかったです。
2. これまでフェリーでの移動はどちらかというと女性にとって劣悪な環境であるというイメージがあったが、フェリーきょうとでは、全体的に清潔感があって、ツーリストでもプライベート空間が保持されていたのが非常に良かったと思う。お風呂も広々と使えたり、パウダールームがあることで、旅行中の女性ならではの悩みに対応していると思った。
3. 食事や入浴に関して、ホテル等の宿泊施設と遜色なく様々なメニューがあったりお風呂に入れたりしたのが驚いた。長距離フェリーに乗るのは初めての体験だったが、フェリーはただ移動するだけの手段と思っていた固定概念が覆された。フェリーきょうとは新船ということもあり、食事・景観・その他船内での体験を目的とした乗船も有りだなと感じた。
4. 船内は広く、施設は清潔感があって過ごしやすかった。給水器があるのも大変助かった。大浴場は景色も綺麗で大変気持ちよかった。人数が集中した際はロッカーが狭かったのでそちらだけ少し心配だった。食事でも大変美味しく、バイキングなので誰と行っても気兼ねないので良いなと思った。
5. 大浴場から見える景観はとても魅力的であった。航海中の海を眺めながら入浴できるのは鉄道や航空機にはない利点であると感じた。敢えて改善点をあげるとすると脱衣スペースの広さをもう少し広げて欲しいと感じた。他の旅行者との距離が近くならざるを得ない場面があった。
6. 船内は広々としており、共有スペースも開放的でした。今回は前回の鹿児島旅行と異なり天候に恵まれたため、甲板からの景色を楽しめたのは非常に良かったです。上下便船ともに宿泊した部屋が赤井ゼミ貸切だったので、他の乗客に気を遣うことなく休息を取れました。食事は選べる料理が多く、味も良かったです。コスト面等で難しいとは思いますが、上下便船で提供される食事がほぼ同じだった点は少し残念でした。大浴場は時間によっては少し混雑していましたが、船内で湯舟に浸かり、リラックスすることが出来ました。他社では船内でイベントを開催しているフェリーも存在するため、長い船旅を楽しめる要素があればなお良かったと思います。
7. 船内はとてもきれいで、快適でした。食事に関しては、すべてがおいしく、想像していたよりもはるかにおいしかったので、とても満足しました。大浴場に関しても、快適な空間で、とても満足したことを覚えています。特に、大浴場でお風呂につかりながら、外の海を見ることができたことに満足しました。
8. バイキング形式で様々な食事を楽しむ事ができよかった。特に海を見ながらの食事はフェリ

- 一特有のものだと感じ物珍しかった。浴室については、稼働率が一目で見える事が出来るのが大変便利であり、柔軟に使用するか否かを定める事が出来た。
9. 船内は非常に綺麗で快適でした。食事もとてもおいしく、種類も豊富にあったため楽しむことができました。大浴場もそれなりの広さがあり、ゆっくりと身体を休めることができました。しかし、脱衣所がやや狭く、ロッカーの配置も相まって少し使いづらいと感じました。また、今回利用した部屋が、通常施錠されないこと知り、女性専用室があったとしても安全面で不安を感じる人は多いのではないかと感じました。
 10. 船内での食事は豪華でどれも美味しく、船の上だからあまりいい食事は期待できないというイメージは全くの誤解なのだと実感した。とくにソフトクリームが美味しかった。新造船ということでの施設もきれいで満足のいくものであったが、ひとつ上げるとするならば、大浴場の大きさ（特にシャワーの数）だろうか。新型コロナの関係で仕方ない面はあると思うのだが、比較的長時間混雑状態がつづき、シャワーが使えないということもあったため工夫が必要かもしれない。
 11. 新門司のご当地グルメである、焼きカレーがとてもおいしかったです。コロナ対策も行いながら、利用者の方に食事をしていただかなければいけないということで、どうしても少々待ち時間が発生してしまいましたが、お一人で食事されている方同士が相席などできるようにすれば、さらに回転率が上がる気もしました。大浴場は落ち着きやすい広さで、海を見ながらとてもリラックスすることができました。
 12. 食堂の席数が多く、コロナ禍においてもソーシャルディスタンスを確保しながらゆったりと食事を楽しめる空間が構築されていたと感じた。大浴場は、浴場内の人の数を知らせてくれる表示があり、混雑状況がわかるのがすごく助かった。ラウンジや展望が長時間開放されていて、ツーリストのように部屋のスペースが小さいお客さんが、部屋以外で過ごす場所が確保されていたと思う。
 13. 前回のさんふらわあとの違いに着目しながら船内を見学していました。特に良いと思った設備は、パウダールームです。鏡やコンセントなどヘアメイクしやすいように考えて設計されているのが伝わってきました。女子トイレもきれいで内装がおしゃれでした。また、大浴場の入り口に混雑具合が表示されているのもとても良いと思いました。
 14. 食事はバイキング形式で、老若男女誰でも楽しむことが出来るようになっており非常に良かった。ただ、ドリンクを入れる機械機会が一つしかなく、混雑している時間帯は利用しにくいこともあった。大浴場は船の中であるにも関わらず広々としており、くつろげるものであった。その他の設備も非常によく、船の上であるが飽きることは全くなかった。
 15. 船上での食事、大浴場ともに船の上でのクオリティとは思えないくらいレベルが高くてびっくりしました。食事では、とりに行く度に食事が変わっていて、選ぶ楽しみもあり、よい体験ができました。
 16. 食事については、船内が揺れることからトレイに滑り止めなどがついているとより安心だと思った。今回は大浴場の代わりにシャワールームを利用したが、しっかり換気されていて不快感はなく、ドライヤーなどの設備もおそらく大浴場とほぼ変わらないもので、シャワールーム特有の不便さが解消されていて使いやすかった。
 17. 船内はとても清潔感があり、女性でも使いやすいような仕様になっていると感じました。また、食事も船内バイキングとは思えないほど料理の種類が豊富で、また質も高く美味しく食べることができたので良かったです。僕はフェリーきょうとではないフェリーに乗ったことがあるのですが、その船と比較しても清潔感やバリアフリーなど近年の需要に応えた造りになっていると感じました。
 18. 全体的にとっても良かったです。食事に関しては、フェリーさんふらわあよりも凝っている、料理という過程をしっかり踏んでいるような感じがありました。ウォーターサーバーがある

ことも非常に助かりました。大浴場については、朝に入ったときには景色が見れてとてもきれいでした。しかし、ロッカーの数が少なく、満席のためリターンするという人もいたため、それは不便であると感じました。

北九州市のクルーズ受け入れ港湾、状況のお話を聞いて学んだこと、感じたこと

1. クルーズのカジュアル船のほうが、ラグジュアリー船よりも観光消費額が大きいことが意外でした。コロナ前は中国人観光客の爆買いの恩恵をあずかっていたのですが、例えコロナによる渡航規制が解けたとしても、この先も同じように爆買いに戻ってくるわけではないので、どれだけ観光消費をしてもらえかが鍵だと思いました。
2. 北九州港が港の賑わいづくりに積極的に取り組んでいることを初めて知ったので非常に勉強になった。観光客だけでなく、地元の人々に港を身近なスポットとして馴染んで利用してもらう工夫がなされているのが素敵だと思った。また、コロナ以前のクルーズ船の観光客の多くが中国人だったので、今後コロナが明けてからどのように集客していくのか、何を観光資源としていくのかとても気になった。
3. かつて門司港は横浜や神戸と並んで三大港と呼ばれたということで、港町としての賑わいを取り戻そうという取り組みが印象的だった。横浜や神戸は港街でありながらも商業施設などが大規模に整備されていて実際に船や港に注目する機会が薄れているように感じるが、門司は間近で停泊している船を臨むことが出来たり体験などのイベントも充実させていると聞き、横浜や神戸と違った強みがあるのではないかと感じた。
4. 港湾局の方の沢山の取り組みについて知ることができた。中国や韓国といったアジアが近い利点は今後も活かせそうだと感じた。他にも、フェリーで行ったほうが便利な地域（離島など）の離発着を活用することもできそうである。いずれにしてもクルーズの存在や価格・魅力を知ってしまえば行きたくなる人は多いと思うので、認知を高める取り組みの重要性は高いと思う。
5. お話を伺って最も印象に残った点は、市として北九州・門司港の優位性を活かした観光戦略を描いていた点である。特にクルーズ船のランク（ラグジュアリー・カジュアル等）に応じてその土地への経済効果などを試算しているという緻密な議論の土台を垣間見えて感心した。
6. 北九州市のクルーズ受け入れはカジュアル向けが多く、その9割が中国からの船であることを初めて知りました。貨物船の合間を縫ってクルーズ船の受入を行っているため、北九州港のクルーズ受入を活性化するためには更なる港の整備、拡充が必要だと感じました。
7. 昔は、北九州港が横浜、神戸に並び、「日本三大港」と呼ばれていることに驚きました。また、一日に1000隻の船が往来するというにも驚きました。市民参加型イベントは、どれも魅力的なもので、特に「ミニミニトライアスロン」には強く惹かれました。若者に来てもらえるようなイベントも開催していて、参加したいと思いました。
8. コロナ禍で対外的な誘致策ができないため、地域内で簡潔するイベント例えばハロウィーンイベントなどを開催する事で、コロナとの共生の在り方を模索しているのだと感じた。一方で、クルーズの地域経済に与える影響を鑑みるに、アフターコロナを見据え今後ともどのようにしてクルーズを活用していくかの議論が重要だと感じた。
9. 私にとって門司港は名前を聞いたことがある程度であり大きな船が来るイメージはありませんでした。しかし、地域ぐるみで様々な施設が協力し、フェリーの誘致に取り組んでいることや、様々なイベントを企画されていることを知りました。また、観光客だけでなく、住民にとっても誇りを持てるような町作りは、観光地として発展するのに必要な要素だと考えるので、北九州市の町作りはとてもいいものだと感じました。

10. 移動に主眼が置かれたフェリーとは異なり、船そのものが観光体験といえるクルーズ船は豪華で規模が大きく、それだけ寄港した際に生まれる消費効果は莫大なものであるのだと分かった。現状北九州港は博多港に大きく差をつけられている状況であり、クルーズ船フェリーを受け入れるために外国人向けのイベントなどが盛んに行われているのだと分かった。
11. もともと国内外の貿易港として重要な港であった門司港が、港のにぎわい作り、地域活性化に積極的に取り組んでいることを学びました。クルーズ船寄港により、さらに北九州市の経済が活性化されそうな兆しが見えますが、カジュアル船を利用する大量消費を目的とした中国人観光客が、越境 EC 等の影響を受けても、長期的に北九州市でなんらかの消費をするように、さらに観光の面でアピールしていく必要があると思いました。
12. 北九州市がクルーズを受け入れるにあたって、港付近の開発や、施設の連携に力を入れていると感じた。特に、海外からの高級プランのクルーズ船に乗ってくる富裕層に対して、北九州や日本の価値を感じさせるような取り組みが印象に残った。日本に来たことがあるという観光客の期待を超えられるように、北九州ならではの日本文化を推進している点に感心した。
13. クルーズを受け入れる上で、中国に近いのは大きな強みだと思うので、ウィズコロナの風潮に乗かって頑張りたいと思いました。クルーズ船はとにかく豪華なイメージがあったのですが、ラグジュアリー、プレミアム、カジュアルという 3 クラスに分類されるのを初めて知りました。
14. 九州自体が、中国などの近隣諸国からのクルーズ船を多く受け入れているが北九州港はその数が少ないということとその理由を伺った。立地や免税店の数、観光地の魅力増強など改善できる点は数多くあると感じ、今後の開発が必要であると感じた。しかし同時に、博多長崎など他のクルーズ寄港に適した港がある中で、北九州港までもがクルーズ船にこだわる必要があるのかとも疑問に感じた。
15. 門司港周辺に、人を呼び込むために、地域の店舗と一体となってマップを作成されていたりなど、それぞれのアクターが連携しているのだと学ばせていただきました。また、港の工事は僕が思っているよりも時間とお金両方がかかるのだなと感じました。
16. 九州はアジアに近いという大きなメリットを持っているのに、北九州港は、博多港や長崎港などに比べ魅力が劣っていて外国のクルーズ船受け入れ回数が少ないという点は、九州出身者として実感を持って理解できた。しかし、港自体が国内からの観光客を集める資源になっていることは、博多港や長崎港と異なる点だと思った。
17. 北九州市が想像以上にフェリーと密接に関連している町だと知って驚いたのが第一印象です。博多港や長崎港に中国からの大型クルーズが寄港していることはニュースを聞いて知っていましたが、門司港にもクルーズが集合していることは知らなかったのととても興味深かったです。また、北九州市がクルーズの利用客を観光需要としてターゲットにしているのを見て、クルーズ利用客の購買力の強さを再認識しました。
18. カジュアルとラグジュアリーの区別がわかってとても良かったです。なかなかどちらをターゲットにするか等、戦略が難しいなと感じました。周遊性向上の取組やグリーンスローモビリティの話が興味深かったです。すべての店を回ると半額になる制度は面白いです。グリーンの方は、ピストン運行で、使い勝手も環境にもよさそうで、勉強になりました。

門司港地区を散策しての感想：門司港レトロ観光の魅力について

1. もともと門司港観光についてほとんど知らなかったのですが、予想以上にたくさんの歴史的建造物があったので、驚きました。名物の焼きカレーも非常においしかったです。きれいなお店も連なっており、街歩きが楽しかったです。門司に行く数日前に横浜に行ったのですが、

港町としては門司港のほうが親しみやすくてほっとする魅力がありました。親しみやすさと歴史を兼ね備えた門司の魅力が、もっと広がると良いと思います。

2. 港全体で歴史的な建物による統一感があり、特にレトロブームな今は人気のあるスポットなのではないかと思った。駅舎も昔からの建物を利用していることから、駅に降り立った時から高揚感があった。ただ、以前来た時も感じたことだが、門司港にいつて何をしたらいいのか迷う人は多いのではないかと思った。
3. 比較的小さな範囲にレトロな建造物や飲食店・お土産ショップがまとまっていたので散策しやすかった。また、昼食には皆焼きカレーを食べていたが「門司港名物といえばこれ」という風に街が総力して焼きカレーを推しているのは観光客のイメージに残りやすく良いと思った。また、橋が上がって船が運航するのを見たが港町ならではの体験でワクワクした。
4. 洋風の建物が多く残る魅力的な街だった。特に門司港駅のスターバックスなどは、昔の伝統的な建物と現代の流行を組み合わせた良い取り組みだと感じた。開発がどんどん進む横浜とはまた異なる、自然体の昔ながらの港地区に惹かれる人も多いだろう。焼きカレーも大変美味しかった。
5. レトロな建築物とそこでしか食べられないグルメ（焼きカレー・地ビール）の2点が魅力であるとを感じる。そこでしか得られない経験・見れないもの・食べられないものというのは観光の観点から非常に重要なものであると考えられるため、そこを強く感じれたことは良かった。
6. 門司港駅や旧門司税関、旧門司三井倶楽部など大正レトロ調の建物が多数現存していて、歴史ある街並みだと感じました。当初、レトロな建物が軒を連ねている様子を想定していましたが、実際には名所が点在していました。半日かけてゆっくり散策するにはちょうど良い街だと思っています。門司港レトロ展望室からは、門司港地区を一望出来ると共に、関門海峡、巖流島、遠くは下関までを見渡すことが出来、非常に良い眺めでした。名物の焼きカレーも美味しかったです。
7. 観光スポットが集約されており、とても観光しやすいと感じました。名物の焼きカレーのお店がとてもたくさんあったので、おいしそうなお店が多く、どのお店にしようか迷いました。いわゆる「映えスポット」もたくさんあり、写真を撮るのが楽しかったです。ご当地のお土産もたくさんあり、迷いました。
8. 横浜や神戸と並ぶ三大港として発展してきたという事を、駅や商船三井の施設などから感じた。また、私が頂いたカレーは地元の方が作っておられ、地域一体となって北九州を盛り上げようという姿勢を感じた。
9. まず、門司駅が非常にレトロな雰囲気であったため、到着時から雰囲気を楽しむことができました。町全体としてレトロな雰囲気を感じさせる一方で、いわゆる「映える」撮影スポットも多く整備されており、若者をターゲットとした町づくりをしている印象を受けました。門司港のあのようなレトロな雰囲気は他にはないもので、初めて見る景色だったため、非常にいい経験ができたと思います。
10. 街並み、特に建物がどれも美しく、私自身高校時代に訪れたため二度目の訪問だったのだが大変楽しめた。港特有のどこか異国情緒漂う、文明開化を感じられるような雰囲気が他では味わえない門司港良さであると思う。加えて展望台や土産物屋、撮影スポットが充実しており、観光地として発展していると感じさせた。
11. 門司港を散歩されていた方のおすすめの焼きカレー店に行きましたが、とても美味しかったです。海側には、観光客が関心を持ちそうな土産屋さんや、特徴的なモニュメントなどがあり、港を中心に町がにぎやかになっているのを感じました。商店街の方にも行ったのですが、商店街はどちらかというと地元の方が中心となって利用されている印象でした。門司港地区の様々な側面が見えて楽しかったです。

12. レトロな町にはいったことがあるが、レトロな港町に行くのは今回が初めてだった。たとえば横浜のように工業地帯の雰囲気がなく、人の暖かさを感じさせる街並みだった。焼きカレーのお店の方も暖かい方だった。レトロという要素と、海という要素は、2つとも写真を撮るのにぴったりな要素であるから、写真を求めてやってくる方が多いのではないかと感じた。
13. 観光地としては程よい広さで満喫できました。(広すぎると回り切れませんが、狭すぎるとリピーターが現れないかなと思うので。)レトロな雰囲気が横浜港と少し似ているように感じました。駅構内や併設のスタバの雰囲気がほかの駅と全然違って観光地感がありました。また、焼きカレーマップの取り組みが面白いと思いました。
14. 門司港レトロの展望室に上がると、海を隔ててすぐそこに本州が見えるという、普段は見ることのできない風景に非常に興奮した。また、レトロの言葉通り立ち並ぶ古風な建物や、焼きカレーをはじめとするグルメも素晴らしいものであった。特に遠方の人に対して、島と島の境目をまじかで見るという非日常的な体験は、非常に魅力的に感じられるのではないかと感じた。
15. 門司港周辺の名物を提供する店のマップを行政と共に作り上げていたり、レトロの雰囲気を楽しめる建物があったりと、門司港地区が地域一体となって、観光を盛り上げようとしているのが随所から伝わってきました。
16. まちの雰囲気から、門司港レトロの名前に見合った観光地だと感じた。視察時にはバナナのたたき売りが行われていなかったのが、見学したかった。下関港も合わせて観光すれば1日滞在することができるので、門司港と下関港はより協力関係を強めていくべきだと思う。
17. 門司港レトロの魅力は、なんといってもその綺麗な建物と門司港カレーだと思います。実際に街を歩いた中で、近年のフォトジェニックなものへの観光需要の高まりを活かして観光客を大きく伸ばせるコンテンツが沢山あると感じました。
18. 港町としてすごくきれいであると思いました。焼きカレーのお店や、売店が入っているところがレンガ作りとなっており、まさにレトロ感があると感じました。鉄道や、船が通るように開く橋など、観光資源も割とあるのかなと感じました。ただ、門司港地区は全体的にまとまりがないように感じました。本当に感覚的にですが、商店街や鉄道博物館、駅の位置が意図なくただ置かれているだけのように感じました。

下関市のクルーズ受け入れ港湾、状況のお話を聞いて学んだこと、感じたこと

1. 下関と門司港が一体になってクルーズ観光客を呼び込むことは、それぞれで呼び込むより良いかと実際に行って感じてきました。下関と門司は船で非常に近いですし、それぞれの船着き場から観光地までも歩いてすぐです。船で渡れるというだけでも関門の特色な上に、それぞれに別の観光資源があるので、関門一体で楽しんでもらうのはとても良いと思います。
2. 下関港は門司港と非常に近いところにあるので、観光客や物流、クルーズ船の取り扱いにならないのかと思ったが、関門地域一体となって協力しているということを知って、県境よりも実際の経済圏を重視した連携という手もあるのだと勉強になった。門司港と同様に、中国人の観光客が以前のメインだったことから、ここに対して今後どうPRしていくのか気になった。
3. 対外貿易と聞くと東京や横浜など大きな港を想像しがちであるが、下関はアジアから近く本州にもすぐに輸送できるという地の利を生かして輸出入に不可欠な役割を担っていることを学んだ。貿易単価に着目すると横浜や名古屋など大きな港を凌ぐ立ち位置にいるのは驚いた。実際に沿岸を歩いていると積み荷を積んだ船が頻繁に航行しているのを目の当たりにし、下関・関門海峡の重要性が実感できた。
4. スイスと協働でクルーズ拠点整備も行っていたり、アジアが近いという利点からも、コロナ

- ウイルス終息後のクルーズの発展が期待できる。その際のコロナウイルスの感染対策ガイドラインなども定められているため多くの人々が安心して下関を訪れることができるだろう。こちらでも北九州同様に、より認知が高くなると、国内クルーズの発展も見込めると感じた。
5. 市が門司港方面の関係者と協力して港湾一帯として観光力を高めていこうとしていた点が最も印象に残っている。正直なところ、小倉・広島に魅力では勝ちづらいついていたが、協働関係を有効に活用することでそれらの都市にも勝つ戦略を打ち出していた点に関心を持った。
 6. 下関港が国際クルーズ拠点港に指定され、積極的な港湾整備が行われていることを学びました。クルーズ船寄港による経済効果の大きさについてはよく理解しましたが、下関港が市街地から離れていることもあり、周辺に観光、商業施設が少なく、閑散とした印象を受けました。2023年度開業予定のクルーズターミナルも観光地から離れているため、港周辺に魅力的な施設を整備、PRすることで集客する必要があると感じました。
 7. クルーズ船が寄港することによる地元経済への影響はとて大きいと感じた。また、下関港でのクルーズ再開に向けた取組が功を奏し、様々なクルーズ寄港につながっていると感じた。しものせきクルーズフェスタに参加すれば、下関港の役割、クルーズの知見を深めることができたとと思うので、予定が合えば参加したかった。
 8. コロナ禍ではあるが長州出島(沖合人工島)の土地の分譲の分譲を公募しているという事で、行政の強い期待が感じられた。今後ともお客様の安全にも考慮しつつ、地域経済を盛り上げるための施策をどのように考えていくかが重要だと感じた。
 9. 下関に港町という印象があまりなかったのが、国際クルーズの船が寄港すると聞いて驚きました。寄港する船の規模によって寄港時の過ごし方や求められるサービスに違いがあると知り、どこをターゲットにするかをある程度絞る必要もあるのではないかと感じました。また、比較的船以外の交通も発達しているように感じたため、船からバスやレンタカーを利用してもらう前提の誘致もできるのではないかと感じました。
 10. 関門地区ということで県が違うことは関係なしに一体となって経済活動や協力が行われていると伺いなるほどと思った。門司、下関間の移動は関門トンネルか船となっていて、移動そのものが楽しく、加えて、その2地区の特色が別の国というぐらい全く違う。そのため、どちらか片方を訪れると、必然的にもう片方の地区も訪れてしまうという観光地としてこれ以上ない仕組みが出来上がっていると感じた。
 11. 今後下関港が、国際的にみてもさらにクルーズの拠点港の中心となっていく可能性を感じました。北九州市とも協力して様々な取り組みを行っているということで、関門海峡周辺が一体となって盛り上がることによるインパクトは大きいだろうと思いました。MSCと協力して国際旅客船拠点形成計画も実行しているということで、今年の論文執筆のテーマでもあった「官民連携」の強みを感じました。
 12. 関門海峡を通る船の数が非常に多く、その反面規制も厳しいというお話が印象的であった。地図から見れば関門海峡は小さな海峡であるため、日本の海上輸送やクルーズにとってそれほど重要な場所であるとは思っていなかった。また、門司港を含む北九州の港と協力しあって、関門海峡周辺全体を盛り上げようとしているというお話があり、歴史を鑑みると、とてもいい話だと思った。
 13. クルーズ寄港時の経済効果に関するお話がとても分かりやすく、印象に残りました。観光地での飲食や土産品等の購入は容易に想像できますが、二次交通の利用や免税店の利用でも経済効果を上げることができるというのは新たな学びでした。下関港と門司港で地理的特徴を活かして一体となってクルーズを増やす取り組みができればよいと考えました。
 14. 下関港と北九州港は距離的には1キロ程度しか離れていないが、両港共に多くのクルーズ船が寄港していることが分かった。両方の港に船が寄港することは重要であるが、その二つの

港の立地を生かして、船を降りたあとに下関と北九州を行き来できるような手配を整えても良いではないかと思った。

15. 自治体が観光客を取り合っているイメージを勝手に持っていたのですが、下関だけに観光客をとどめるのではなく、北九州の地域と共に人を呼び込もうとする政策を打ち出していることが個人的に面白い視点だと思いました。
16. クルーズ市場の拡大によって、クルーズや港だけでなく周辺産業の需要も高まることは喜ばしいことだが、今の下関はその需要を満たすことができるのか、どのように対応していくのかということが、需要の成長を継続させるためにも大切なことであると実感した。
17. 下関市にクルーズが来るとは正直全く思っていませんでしたが、実際に寄港している船があると聞いて驚きました。自分は祖父母が山口県に住んでいるのですが、是非クルーズがたくさん来て地元を潤して貰えたらと思いました。
18. 勉強になることが多かったです。山口の端にあるものと少し軽く見ていたら、国際的に非常に重要であり、背後圏もとても広い港湾であったため、とても驚きました。韓国との近さや、そこから日本の空港へも近いという地理的な要因も興味深く、このようなところで鉄人レーズはとても行えないなと思いました。長州藩が強くなった理由を垣間見ることができたような気がします。MSCと国との協力事業も面白く、目が離せない港のように感じました。

下関地区(唐戸市場地区、赤間神宮地区、関門海峡人道)を散策しての感想・観光

の魅力について

1. 唐戸市場周辺のお店がほとんど閉まっており、残念でした。赤間神宮はインパクトが大きく、赤間神宮からの景色も非常に素晴らしかったです。また、下関条約を締結される際に使用された机や椅子を見ることができ、歴史好きとしては興奮しました。気になったのは、現地での歴史観光PRが小さいところです。源平合戦、幕末、明治時代という様々な歴史の舞台であるのに、あまり押し出されていないのが気になりました。
2. コロナのせいか、閉まっている店が多く、本来の港の姿が見られないのが残念だった。また、下関は観光資源に非常に恵まれており、今回の大河ドラマ等宣伝のチャンスがたくさんあるのに、そういったことに対して控えめな印象を受けた。もっと貴重な資源や名所を下関エリア一体となってアピールする余地があるのではないかと思った。
3. 下関から関門海峡人道を通過して門司へ向かう中で、壇ノ浦古戦場址や日清戦争時の下関条約にまつわる資料などを見て山口が長期間にわたって歴史上の重要な舞台となっていたことが実感でき興味深かった。唐戸市場に関しては訪問時間が営業時間と合っておらずフグなどの海産物をあまり堪能できなかったのが、是非再訪したいと感じた。
4. 海沿いで散歩にうってつけの大変気持ちの良い地域であった。日清講和条約記念館や壇ノ浦といった歴史を変えた重要な文化財や建築物が多く、他の地域にはない魅力だと思う。唐戸市場周辺の海鮮や日本酒の豊富さ・美味しさも山口県ならではの観光的な魅力である。関門海峡人道は、簡単に歩ける距離でありながら、県境を超える経験ができ、大変珍しく面白い経験ができる場所だと思う。
5. 自分が歴史に疎いことは前提に、数多くの歴史的に意義のあるスポットがあると感じた。また、関門海峡人道についてはまさに「そこでしか得られない経験・日本唯一の経験」が得られたため、私個人としては行って良かったと感じれる観光ルートあった。
6. 唐戸市場は午後に訪問したため、市場の賑わいを直接見ることが出来ず少し残念でした。名物のフグ料理を提供する店が多数あり、下関らしさを感じました。フグ汁を頂き美味しかった。

たです。赤間神宮周辺には源平合戦や日清戦争ゆかりの地があり、歴史を感じました。関門海峡人道は世界でも珍しい海底人道トンネルで、観光スポットと市民生活の足の2つの側面を持つことを知りました。

7. 新鮮なふぐ刺しを食べることができたので、とてもうれしかったのを覚えています。また、歴史で習った下関条約が実際に締結された場所を見ることができて、歴史を身近に感じました。美食と歴史を体験できたことは、とても貴重な経験でした。
8. 下関から門司まで自分の足で歩く事を通して、港湾機能の強さであったり、歴史（源平合戦）などの跡地であったりを身近に経験することができた。また海鮮を楽しむ事ができ、多くの観光資源が備わっており、大きな経済効果を生むのだろうと感じた。
9. 私は古代や中世の歴史が好きなので、源平合戦にゆかりのある神社や地域を訪れることができたのはとても嬉しかったです。また、安徳天皇陵も見ることができたため、とても満足しています。壇ノ浦の戦いはとても有名な戦なので、日本史が好きな人以外にももっとPRできるのではないかと感じました。関門海峡人道は、観光地というよりは地域の人が日常的に利用している道路という印象を強く感じたため、観光客が増えることの問題を考慮すると、あまり観光地としてPRする必要もないのではと感じました。
10. 門司港とは打って変わって、フグが前面に押し出されていて、また市場でも一般客でも買えるような工夫がされていた。海峡沿いということでもずっと海が見え、橋や船が時折見えるのでまったく見飽きることがなく、散歩していてとても楽しかった。関門トンネルは思ったよりもシンプルな作りであったものの県境が撮影スポットになっていて各所に人を楽しませる工夫を感じた。
11. 下関地区は、壇ノ浦の戦いの場所でもあり、下関条約が結ばれた場所でもあるなど、歴史的な出来事との結びつきが深い地域だと思います。そういった場所を、海の景色を眺めながらゆっくり歩き、また歴史的な意義なども理解しながら巡るのは、ゆったり観光したい方にはとっておきの場所だと思います。
12. 門司港ほどのレトロさはなく、現代風に開発され尽くしてもいない、少し古さを残しているような港町だと感じた。観光の魅力としては、やはり唐戸市場が挙げられると思う。下関でフグが有名だということは今回初めて知ったが、唐戸市場ではフグの魅力が前面に出されていて、すぐにその有名さを理解した。また、関門海峡人道付近では、壇ノ浦の戦いが思い起こされ、歴史を感じた。
13. 壇ノ浦という大変有名な土地を訪れることができてよかったです。赤間神宮では、鳥居の赤と松の緑と海の青のコントラストがきれいでした。海底トンネル内に県境があるというのが大変興味深かったです。県境の地面に書いてあった山口県/福岡県の文字がいい味を出していました。入り口と出口に開設のパネルがあり、関門海峡人道について勉強になりました。
14. 午後だったため、せりは終わってしまっていたが、唐戸の店でいただいたふぐは非常に美味であった。赤間神宮の周囲には下関条約締結の記念館もあり、時代の変遷を感じさせるような雰囲気であり、人を呼び込むのに非常に良い場所だと思う。関門海峡人道は、観光資源というよりも、地域の方の生活道路、ジョギング道という印象が強く残った。
15. 赤間神宮の門から、見える海の景色がとてもきれいだったので、印象に残っています。また、船が橋の下を通るときの写真もインスタ映えしそうで、景色ももっと打ち出したらいいなと思いました。
16. 勝手なイメージながら、唐戸市場を含め漁港近くの市場は昼を過ぎるとほとんどの店が閉まってしまう、さびれたような雰囲気になってせっかくの魅力が半減してしまうと感じる。また、視察したのが平日だったこともあってか下関の売りであるふぐを食べられる店があまり見当たらなかったのが残念だった。
17. 下関市の散策は、店が空いていなさすぎて少し消化不良でした。下関市と門司地区を合わせ

て1つの観光地とすると仰っていましたが、正直今のままでは門司にばかり人が流れると思います。下関市もせっかく様々な観光資源を有しているので、これらをより有効に使うとより観光客数を伸ばせるのではないかと思います。

18. とても魅力的であるなど感じました。自分は小さい遊園地へ行ったのですが、軽めの乗り物と遊び場があり、ファミリーにとって良い場所であると思いました。唐戸市場については、また朝に訪れてみたいと思います。海鮮は海外でも生食が受け入れられてきているため、インバウンド的にも有用であると思います。他の場所については、下関条約、壇ノ浦、四国連合艦隊へ向けた大砲等、日本史好きにはわくわくする内容でした。

今回の企画において、特に満足したポイントを3つ

1. まず、新造船ということで船内がきれいなところ。特に水回りがきれいなところが良かったです。また、女性としてはパウダールームが用意されているところも良かったです。不便だったことは、部屋の鍵が一つしかなかったことです。カードキーが人数分あったり、パスワードで解除できたりするとより便利になると思います。
2. ・船内に清潔感があって広々としており、快適だった。・2泊3日の間に複数の観光地を巡ることができた。・フェリーという同じ交通手段、同じ宿泊地を利用しているため、ゼミ生同士で共有する時間が長く、仲が深まったように感じる。
3. ①船内や甲板から景色を観ることができたり、アミューズメントがあつたりと飽きることなく滞在できた。②トイレや化粧室に清潔感があって、落ち着いて利用出来た。③船内での食事が充実していた。
4. ①自分からは行かないクルーズの体験ができたから②その上、クルーズ内は綺麗でご飯も美味しく楽しめたから③ゼミ生との交流を深めることができたから
5. 食事・景色・部屋のつくり
6. ①船内が新しく広々としており、設備も充実していた。食事も美味しかった。②現地滞在時間が長く、門司港や下関観光を楽しめた。③旅行代金プランが良心的で、学生でも移動手段として利用可能な手ごろな価格帯だった。
7. ”・睡眠の快適さ・バイクの充実・船から見る夜景”
8. ①初めてフェリーに乗って、今まで夜行バスのようなただ寝るだけの施設と感じたのだが、施設などが非常に充実していると感じた。②クルーの方の接客が素晴らしいと感じた。③フェリーに乗りながら、その土地ごとの特徴を掴めてよかった。
9. ・船での移動が非常に快適だった点。・門司のレトロな雰囲気を楽しむことができた点。・下関にも行くことができ、源平合戦ゆかりの地を訪れることができた点。
10. 船内の環境（食事がおいしかった、デッキからの景観もよかった）、門司での観光、下関での観光（特に歩いたところ）
11. ①フェリーに乗り、船内で宿泊するなど、非日常的な体験ができたこと。②港の地域活性化のための取り組みについて、担当者の方の話を直接聞き、深く学習できたこと。③クルーズ体験を通して、ゼミ生との深い交流ができ、今まで以上に親交を深められたこと。
12. ラウンジや展望スペースなど、部屋以外で過ごせる場所が多かった点。食事のメニューが豊富で、座席数も多く、広々と使えた点。ウォーターサーバーが無料で使えた点。
13. 前回同様、フェリーで非日常を味わえたのが良かったです。瀬戸内海で揺れがほとんどなかったため、快適に過ごすことができました。前は女子二人だけだったのですが、今回はもうすぐ卒業される先輩と一緒に旅行できて嬉しかったです。また、近い距離にある二つの港を訪れて、双方の港の方からお話を聞いて対比しながら勉強できました。
14. フェリー内部の設備がきれいで充実していたこと。門司及び下関の港の役割を学んだり、

- 食や歴史を堪能することができたりしたから。価格がリーズナブルであったこと。
15. プライベートの空間がきちんと分けられていて落ち着いて過ごせたからです。また、フェリー上でのビュッフェがとてもおいしかった点です。船上での食事とは思えないクオリティでした。最後に、運行ルートで橋を見ることができたことです。
 16. 横浜港視察の直後だったこともあり、地方港の施策や戦略を横浜港と比較しながら知ることができたこと。観光客の部屋は、想像以上にプライベート空間が確保されていたこと。飛行機や新幹線、夜行バスに次いで新たな交通機関の選択肢を知ることができたこと。
 17. フェリーの部屋が貸し切りだったこと、4年生と最後の思い出を作れたこと、実際に港を訪問して普段は見れないものを見ることができたこと
 18. 下関港と門司港を一日に回って、両方を比較することができたこと。港関連のセミナーを繰り返し受けることで少し自分自身も詳しくなれたこと。ウォーターサーバーがあり、水をたくさん飲めて飲み物代が浮いたこと。

クルーズ・フェリー体験企画についての意見や今後への要望。

1. フェリー旅行はとても楽しかったですが、クルーズのラグジュアリーな感じも経験してみたかったです。この3年間でクルーズに行けなかったのは、本当に心残りです。
2. フェリー企画には初めて参加しましたが、非常に楽しく充実した旅になりました。他にどのようなエリアへの旅が可能なのか分からないのですが、フェリー会社について、港の役割や取り組んでいることについて、そして現地の観光資源について、フェリーに乗って旅するだけでたくさんのことを学ぶことができると思ったので、今後もゼミ生を日本全国、コロナが明ければ世界に連れて行っていただけたらいいなと思いました。
3. 中々船に乗ることが叶わなかった学年なので、最後の機会にこのような経験が出来てよかった。フェリーやクルーズ企画は船内を楽しむことに加え、それぞれの寄港地の地域や港の特色についても学べる機会だと思うので、より色々な場所へ立ち寄れる企画が再び出来るようになることを祈っている。
4. 観光先であまり観光の時間が取れないことが残念なので、午後はすべてフリーなど、まとまった時間があるとなお良い。なぜなら、北九州や下関含め有名な観光地まで時間がかかる場合が多いからだ。せっかく訪れたにもかかわらずあまり観光せず帰るのが残念だなと思った。
5. まず、今回の規格について、非常に満足している。なぜなら、平時は利用しないフェリーを利用したことで宿泊と移動が一体化した交通手段の魅力を確認することができたからだ。さらに、「海」という大いなる自然に触れあいながら旅行できたのは良かった。
6. 移動手段としてフェリーを検討することが個人的にはないので、ゼミで船に乗ることは貴重な経験となりました。今年度のフェリー企画はいずれも行き先が九州だったので、四国方面や昨年行けなかった北海道なども訪れてみたいです。また、海外渡航規制が解除された際は、カジュアルクルーズをぜひ体験してみたいです。今年度2回開催されたクルーズ・フェリー企画はいずれも港湾見学とセットでしたが、訪問先の観光施設などの戦略をメインに伺う機会を設けて頂けるとコロナ後の観光経済の立て方について理解を深めることが出来ると考えます。最後になりますが、赤井先生には常日頃から貴重な学びの機会をゼミ生に提供して頂きまして感謝申し上げます。
7. 今回も非常に楽しく、勉強になる企画を開催していただき、ありがとうございました。要望というか個人的な思いになるのですが、やはり、卒業までに海外クルーズ旅行に行きたい気持ちが強いです。コロナが収まり、ゼミ生みんなが海外クルーズ旅行にいけるような未来がくればいいなと思います。
8. クルーズと寄港地をセットで楽しむ事が出来、フェリーの経済効果についてを学ぶことができた。今後は九州地方以外や、客船だけではなく貨物船なども見学してみたいと感じた。ただ体験型学習を通して座学だけでは得られない知見を獲得できたという点で非常に有意義な体験であり、今後とも参加させて頂きたい。

9. 非常に貴重な経験をすることができ企画なので、今後とても楽しみにしています。ぜひ、今度は九州以外の地域にもフェリー企画で行ってみたいと思っています。航路や時間的に難しいかもしれませんが、東の方面に行ってみたいです。また、神戸港など、大阪港以外の発着の船も利用してみたいです。あるいは、前回のさんふらわあ号は台風の影響で船内を楽しみきることができなかつたため、そのリベンジもしたいです。
10. ゼミで班や学年を超えて旅行ができるのはとても楽しいし、ゼミ生同士や先生とも交流ができるのでとてもありがたい。ぜひとも今後も続けていただければと思う。今年度は九州に行く機会が多かったので、もし選べるのなら四国や北の方にも行くことができたらと思う。
11. クルーズ・フェリー体験企画を通して、クルーズ・フェリーの可能性や、訪れた地域の、活性化のための取り組みなど様々なことを学んだのですが、同時に同期や先輩との仲も非常に深まった気がします。新しくゼミに入ってくる2年生とも、旅行を通して、様々な土地のことを学びながら親交を深めたいと思います。このような素敵な旅を企画してくださって、ありがとうございました！春休みの思い出になりました！
12. 全国様々な港に行くことができ、その港周辺の知識を持って帰れる点にとっても価値を感じている。普通に旅行に行くだけであれば、行った場所についての情報を得られないこともあるが、このような企画では、現地の方々の声を聞くことができる。普段の旅行では得られない貴重な情報を手に入れられることは、今後の人生も豊かにしてくれると思う。
13. 他のフェリー会社のフェリーも乗って、旅客、運輸面など会社ごとのスタンスの違いなどを学びたいです。また、九州以外にも行ってみたいです。今回もフェリー会社の方と港の方から直接お話を聞くことができ、貴重な経験ができました。ありがとうございました。
14. 船に乗りどこかに行くという経験は大変貴重であり、毎度たくさんのことを学ぶことが出来るため、今後も積極的に参加したいと思う。今後のクルーズやフェリー体験企画では、九州だけでなく海外や日本のほかの地域などにも行く、更なる知見を深めることが出来たら良いと考えている。
15. 各地点間の移動手段として、船という選択肢がなかったのですが、今回の経験で船を使うこともありだなと思うようになりました。この経験を、より多くの人に届けるために、実際に船内を移すなどのオンラインでの広報などに注力したら面白そうだなと感じました。
16. 以前お話の合った、神戸港クルーズをまた企画していただきたいです。また、大阪港から出発するというルート上難しいかもしれませんが、九州は少し飽きたので、東北や北海道など大阪より東のほうに行ってみたいです。
17. ゼミでこのような企画をしていただけたことで、これまで以上にゼミ生と仲良くなることができました。来年の新2年生との交流を兼ねて旅行に行きたいです。行先は、これまで九州が多かったので、次は北や東に行ってみたいと思いました。舞鶴から小樽まで出ているフェリーに乗ってみたいです！
18. 様々な企画をしていただけてとてもありがたいです。要望を申し上げるとすれば、フェリー体験と付随して、マリンスポーツに触れてみたいです。また、多少お金が高くなっても、東北や北海道に向けた船に乗りたいです。時期的に厳しいですが、オホーツク海を周遊してみたいです。

随行者からのコメント

このたびは、名門大洋フェリー様、大阪港湾局様、北九州市港湾局様、下関市港湾局様のご協力により、赤井研究室において、2泊3日（船内2泊）のフェリークルーズ旅行を体験することができた。リーズナブルな料金で、寄港地を訪問し、地域活性化の取り組みを学び、また、瀬戸内海の洋上の空間でゼミが一体となって議論をする機会も持つことができる。ゼミ生同士の仲間意識も醸成され、社会の在り方も学べる良い機会となった。この機会を与えてくださった皆様に感謝したい。